

外国籍の高校生の話

私は外国籍だが、生まれも育ちも日本だ。生まれつき、肌の色や髪は父に似ている。幼稚園の頃、「一緒にあそぼう」と言うと「日本人じゃないからいっしょにあそばない」と言われた。小学校の頃、間違っただけをした男子を注意すると「うるさい、外人」と言われ、思わず手を出してしまいそうな気持ちになった。そのとき、ある友だちが「外人って、私たちだって他の国に行ったら外人じゃない。そういう言葉、すごく傷つくと思う」と私の代わりに怒ってくれた。今でもその友だちとは一番の親友だ。

医療従事者の SNS の投稿

私は看護師をしています。私が勤める病院は、新型コロナウイルス感染症にも対応する病院です。私は小児科のため、感染した患者さんと直接関わることはないのですが、病院では感染予防のために精一杯の努力をしています。私には、3歳の娘がいますが、感染しないようにできることは全てやっています。しかし、保育園からは「医療従事者のお子さんは預かれませんか」と言われてしまいました。検温も健康管理も、念には念を入れています。それでも、断られてしまいました。

学校の近くに家族できりもりしている、スーパーがある。店員さんはとても親切で、部活帰りには「お疲れ様」と声をかけてくれたり、練習試合の時には、「がんばれ。」と応援してくれたりするほど。ある時、そのスーパーが「新型コロナウイルスに感染していた人がよく通っていたスーパーだ」とうわさを聞いた。

休みの日、家族でそのスーパーに買い物に行くことになった。

ある主婦へのインタビュー

緊急事態宣言下で、不要不急の外出が制限される中、通信販売などの宅配業者は通常の何倍もの業務をこなしている。ある主婦は、宅配便を受け取るときに、今までは業者のペンを借りていたが、自分のペンを使うことにした。「感染するかもしれないからということだけでなく、少しでも手間をとらせないようにしたい」と述べた。

「ごみを集めてくれてありがとう」

A 市では、家庭から出されたゴミ袋に、感謝のメッセージが貼られることが、多く報告されている。ステイホームを合い言葉に、家で過ごすことが多くなった。家庭ゴミは通常以上に増えている状況で、作業員は危険と隣り合わせで努力している。これらの手紙を見て、励まされているようだ。